

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100184		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい島郷	ユニット名	2Fフロア
所在地	静岡県沼津市下香貫清水2135		
自己評価作成日	平成29年1月25日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&lgvosyoCd=2291100184-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成29年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所目標である『居心地の良い生活』を実現するために、ご入居者様が趣味の時間を持てる自由な時間の確保を行なっています。全体で行うレクや体操もしっかり行い、個別レクを含めて『退屈な時間』の無い生活が出来るように支援しています。外出も多く企画しています。ご入居者様、職員の結束が強く、したいことや変わったアイデアが生まれてきます。個々で会話を楽しみ、笑い声が絶えません。家事手伝いに自然と専任がご入居者様の中で生まれ、協同で生活している様子が見ることが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は利用者同士あるいは職員と会話を楽しみ、笑い声も多く、明るい雰囲気の中でホームの年度目標である「居心地の良い生活」を送っている。職員は若々しく、清々しく、職員間の風通しの良さが感じられる。老人会が来訪して踊りを披露したり、祭の会場として2日間駐車場を提供する等、自治会との交流を深めている。また、ホーム主催のサマーフェスタでは、模擬店や介護相談ブースを設け延べ200名の住民等の参加がある。「ふれあい介護研修」等の地域に開放した研修も開催し、地域住民との付き合いを進めている。前回の外部調査の結果を踏まえて目標達成計画を作成し、多くの具体的な取り組みを実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を毎朝の朝礼時に斉唱している。全体会議などで職員全体で目標や理念について話し合っている。事業所目標・接遇に対しての心構えも斉唱しています。	会社の理念とホームの理念、そして職員全員で話し合い作成したホームの年度目標を、申し送り時の朝礼で唱和している。職員の理解に程度の差はあるが、理解が進み浸透したため、唱和の速度は高まっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体などと交流を持ちボランティアやイベントを開催している。周辺散策・店舗への買い物へ出掛けている。近隣の散歩で声を掛けられることもあります。	自治会に加入し、回覧板に時々ホームからのお知らせを入れている。老人会が来訪し踊りを披露し、自治会の祭の会場として駐車場を提供している。ホーム主催のサマーフェスタには延べ200名の住民等の参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のお祭りを開き、模擬店・大道芸などを楽しみながら地域の方と交流しました。地元自治会に駐車場を使って頂き、地元の納涼祭を開催、参加させていただきました。地元住民様へ介護教室を開催予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回と同様にご入居者様家族様、地域包括、地元の自治会長様をお誘いし会議を行っている。得られた情報は御家族様・事業所内で共有させて頂きサービスの向上を図りました。	年度初めに開催予定を作成し、年6回開催している。自治会長や地域包括支援センター・民生委員2名と3～4名の家族、そして年1回市の職員が参加している。事故報告等、行政への報告も包み隠さず会議で説明し、オープンな姿勢で臨んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご相談ごとや問い合わせを何度も行いご入居者様、ご家族様が困らないよう配慮している。生活保護の方の情報を定期的に報告している。事故発生時の報告もリアルタイムで行なっております。	市職員の来訪は運営推進会議に年1回、生活保護の利用者関連で年1回ある。市主催の会議や研修には可能な限り出席し、積極的に相談等をしている。またグループホームの市南部会議に2ヶ月に1回出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。ご入居時にご家族様へも説明している。フロア出入り口は施錠しています。ご家族様へは安全配慮の為とご理解を頂くようにお話させていただいています。	身体拘束はしていない。スピーチロックに留意し「ちょっと待って」の強い口調をやめることや「そっちはダメ」は言わず職員がついて行く等の指導をしている。フロアが2、3階にあるため、家族の了解を得て出入口の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議を毎月開催し、困りごとや介護のこと、わからないことなどを話し合う機会を作っている。ご入居者様の少しの異変なども察知し、すぐに原因を考え、たい策を練っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が付いている方は現時点ではいけません。後見人制度は知っているが詳しくは理解はない。管理者・職員の理解が必要になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書はご家族様と読み合わせを行い理解を求めている。何でもご質問しやすい環境を整えています。転倒やご病気になった際の対応方法を例を挙げて説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置していますがこれまで投稿はありませんでした。面会時に要望や不備がないか面と向かってお聞きさせていただいています。担当者会議に置いても聴取出来るような書面を使用してお意見を確認しています。	運営推進会議に3～4家族、サマーフェスタに6家族の参加があり、日々の家族の来訪も多い。来訪時に丁寧に面談をするほか、簡単なお知らせや緊急時等はメールや電話も使用し、要望や意見をきめ細かく聴取して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に話ができる環境づくりを行い、個別に意見を聞けるように面談や声を掛けています。代表の電話番号も緊急連絡網に入れ、電話ができる状況になっています。	月1回開催の全体会議とフロア会議では、職員が気軽に意見を出せる雰囲気作りをし、日常業務では管理者と職員との垣根を低くすることを心掛けている。ホーム長自身が「現場に出て話すこと」を目標としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に合わせ勤務を配慮しています。キャリアパスにて評価、能力や業務の責任で給与を決めています。資格のとり方、職位について周知し向上心につなげています。資格・研修に行ける勤務体制をとっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者が多くいましたが順次初任者研修を受けており、全体の知識・技術も向上している。研修なども積極的に出席できるように勤務調整し、力量や職責で受講する研修を受けるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との合同研修なども行っており、そこで交流や情報を吸収する機会を設けている。関係各所が主催する『講習』『交流会』のお知らせを周知し、参加している。		

自己 自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様と入居時の面談や、入居から暫くは困っていることなどを伺いに訪室している。ご家族様には面会時にお話を伺っている。出来る限りご本人様やご家族様のご要望に添えるよう勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の相談や面談の際やご入居前にご家族様と密にお話する時間を作り、疑問や不安が無いようにひとつひとつ解決するように心掛けて接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり情報収集を行い、必要なサービスや援助の初期を決定し、援助しながらその人のアセスメントを行い随時変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・掃除・洗濯などを分担しそれぞれの役割を持ちお互いが支えあう生活を行っている。できなくてもお気持ちを大切に共に生活している関係を満足感に変えることができるように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の普段の状態や言葉などを面会時に細かく報告し情報を共有している。イベントや外出時の写真などをご家族様・ご本人様を交えて見て頂きたくさんお話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会について、入居時にご家族様が了解であれば、ご友人様の面会も制限していない事をお伝えしています。今まで買い物に行っていた人は職員と共に出掛けご自身の目と手で確かめて買い物をしていただいています。	友人や自宅の近所の知り合いの来訪が続いている利用者、家族同伴で墓参りや食事に外出する利用者、そして馴染みのスーパーマーケットへの買物を職員同伴で継続している利用者等への支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い悪いを把握し、席の配置や、個別対応と、全体対応にメリハリをつけている。問題が起こった時は、職員が入り解決に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された方はいらっしゃいますが、お亡くなりになっている為、それ以上の関わりは持っていません。告別式に出席させて頂ける方は出席し、退去後も送られてくるお手紙などは御家族様と連絡を取りお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時にその方を知る事から始め、こまめにご家族様・ご本人様とお話をして個別の対応を行っています。	利用者の思いを知ることやキャリアパス制度の目標とする職員が多く、真剣に取り組んでいる。利用者アンケートの実施がおやつに反映され、編み物の希望には毛糸を準備する等して意向の把握と実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・ご本人様と入居前にお話を伺い、今までどのような暮らしをしてきたか、どのようなお困り事があったのか、体調面に関しても今までの経過を詳しく聞きこみ情報収集しています。担当ケアマネ様が居れば情報提供を受けます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックを行い数字にて健康状態の把握を行っています。その都度お言葉を掛けさせて頂き顔の表情や顔色。温度の確認などを行い変化にいち早く気付くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本は月に1回フロア会議にてモニタリングしています。状態や状況の変化にてご家族様や医療連携先と相談し方向性を決めています。	毎月のフロア会議で各利用者についてカンファレンスを実施している。ケアチェックや会議録・担当者会議でのメモ等をもとに3か月ごとの見直しを計画しているが、滞っている部分もある。家族の意向は面会時に伺い取り入れている。	モニタリングをもとに定期的な見直しの実施が望まれる。介護計画作成者の入職予定により、円滑な見直しのもと計画に沿った支援が実施されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者へ申し送りにて情報共有をしています。記録や気付きノートや日誌にその都度気付いた事やどんな状況だったのかを記入して情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様よりの情報で、その方のニーズが施設で賄うことのできることを判断し、我々もご家族様の1人として様々なお手伝いを行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の今までの暮らしを把握し、その方に合わせ身体と心が安心して暮らせるように、その方が輝けるように得意なことを把握し行って頂き賞賛される環境づくりをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様がかかりつけの病院・医師で受診を受けられるように支援しています。受診の際は最新の情報を連携先に提供し健康管理をして頂いています。	現在、全利用者が希望により協力医の月2回の往診を受けており、専門医の受診は家族や管理者が対応している。家族が通院に同行する場合は、直近の状況を説明して適切な診断がされるよう図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問の際、変化を報告し情報共有をしています。緊急時は医療連携の看護師に報告し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に現病歴はもちろん既往歴、注意事項を入院先に提供しています。入院時に必要な物品など、こまめに訪れ入院先病院様に迷惑を掛からないように準備・追加をしています。退院時期に関しても早期に施設でできる範囲で受け入れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までのケースでは、状況変化でご家族様に報告し方向性を決定、適時に医療連携先医師と話し合う機会を作り報告性を決めました。いずれも施設では対応困難で病院を選択し入院後お亡くなりになりました。	看取りとされる状況に至った時点で、その方にふさわしい看取りのための研修をする。指針や支援の様式等も準備され、家族が宿泊して共に看取る体制もできている。現在のところ、容態が変わった時点で入院するケースが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変については生命が切迫している場合は救急車優先、他は管理者の指示にて行動を設定し、ルール通りに行動できている。定期的に社内研修を行い知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成、防災委員を中心に定期的に訓練を行っている。地域での活動は沼津市よりの訓練で報告訓練を行っているが、地域では実施できていない。地域に認識され来ましたので次回より地域防災にお誘いされています。	台風や集中豪雨による被害、夜間想定訓練等で年6回ほどの様々な訓練の計画を立て実施している。消防署立ち合いの訓練では、避難に要する時間等の具体的な状況も把握できた。	災害時における利用者と家族の連絡やその後の対応等について、個別に必要な約束事を確認することが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	診察や肌の露出させる援助を行う際はしっかりと戸を閉めたり、パーテーションで見えないように配慮している。ご入居者様の呼び方も全て『さん』づけに統一、言葉遣いも十分に配慮している。できていなければ個別に指導している。	言葉かけや対応については、法人の方針を伝え研修や会議でも意識付けを図っている。「今月の目標」の接遇に関して具体的な取り組みもされている。「家族」と「お客様」の間でふさわしい対応を指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や不満のお話は表に出しやすい人間関係を作っています。可能なことは早急に対処し、不可能な事には『何故』をしっかりと説明し納得して頂けるようにお話しています。自己決定ができるように『待つ』事もあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや身体を動かす事の基本ペースはありますが、業務的ペースにならないように心掛けています。できる限りの制限を持たせないようにしています。個人の趣味を行えるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服やズボンなどの衣類を何枚か出しその中から選んで頂いて、その衣装について感想を言っています。目標はいつ外出しても恥ずかしくならないようにを目指していますが、ご入居者様のペースに合わせる事もあり乱れる事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとのイベントや誕生日などの特別な日に見合った食事ができるように配慮しています。外食や皆で作ったものなど様々に楽しんで頂いております。準備や片付けも協力してその方のできる事を分担して役割をお持ち頂いています。	利用者が得意な作業を分担しており、食後の食器洗いや食器拭きも自分の持ち仕事として積極的に関わっている。外食や出張ラーメン屋さん等、周りの協力を得て利用者の食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の摂取量を把握して、その方にあった食事量を提供、水分量は1日1500ml以上を目標としています。夏場の外出・入浴後にはポカリスエットを提供し失われた水分とミネラルの補充をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科医師の往診、歯科衛生士の口腔ケアを行っています。毎食後に全員に口腔ケアをして頂き確認をし職員によって仕上げを行っています。夜間は義歯をしている方は洗浄剤に付けています。定期的に口腔ケアの研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方に関しては排泄の内容を把握させていただく為にトイレに行った際に排尿・排便の有無を聴取しています。失敗のある方は個別にリハビリパンツ・パット・オムツなどで対応しています。声掛け排泄誘導もしています。	自立度や状態に応じて声掛け誘導をして、トイレでの排せつ支援を行っている。また、水分のインとアウトのチェックリストや排せつ後の確認により、便秘やおなか具合を把握して気持ち良い排せつに繋げるよう図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の体操を取り入れています便秘傾向の方に関しては水分量のチェックを行い、便の性状や訴えを把握し必要時に医療連携医師に相談し下剤や緩下剤の処方を依頼しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回入浴できるように週間予定としてプランしています。どうしても入りたくない方に関しては時間を変え、人を変え無理強いしないように対処。入浴を見送る際は清拭に切り替えたりして清潔を維持しています。	入浴後の浴室内は隅々まで清掃が行き届いており、器具は乾燥して清潔が保たれている。衛生に配慮した気持ち良い入浴を支援する職員の心意気を感じられる。利用者の好きな入浴剤も常備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせ入眠介助を行っています。歩行不安定も呼吸抑制も考えられる為、出来る限り入眠導入剤を使用しない自然な入眠をして頂いています。入眠を無理に促さず自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬チェックリストを用い間違いのない与薬をしています。お薬のセットは薬局または管理者が行い情報共有もリアルタイムで行っています。用法・容量に関しては職員の末端までは把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今まで楽しみにしていたことを把握し、継続できるように整えること。楽しみを拡大できるようにしている。1日の中の家事などを分担しそれぞれの役割を持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を参考に外出を計画している。長距離の歩行が可能な方、近所までの方などお体の耐久性に応じ、日々散歩を実施している。遠距離の外出は施設車両にて行っている。(1月～3月は感染症対策で自粛している)ご家族様との外出は制限なく行われています。	利用者の希望や状態、天候等を考慮しながら散歩や外出を支援している。ドライブも少しずつ距離を伸ばして行楽気分を味わい、特に蜚りりの企画には非番の職員も参加して感動を共有することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては基本的にはお持ち頂かない様にしていますが、どうしてもとの方は少額のお金をお持ち頂いています。日常品の買い物と一緒に選び購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話をお使いの方はおります。制限はしていませんがあまりお使いになりません。施設にお越しになることが多いです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝と夜勤時に掃除を行っています。転倒防止の観点から危険物を除去しています。音楽もみなさんのその時その時のご希望によって音楽を用意してリラックスできる空間づくりをしています。定期的に危険予知訓練を行い、日々居心地の良い空間を提供できるように心掛けています。	広く明るい居間と廊下は朝夕の清掃で清潔に保たれている。テレビが見にくないようにカーテンを閉じたり、静かすぎないように音楽を流したりして、こまめな温度調節をする等々、利用者の状況を観察しながら居心地の良い空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掲示板にイベントや外出の写真とコメントを掲示して皆さんに思い出して頂ける様に配慮しています。ご入居者様の中でも気の合う合わないがあり共有部での席順を配慮。机によって趣味の内容が違っているようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談し、使い慣れた馴染みの物を置いて頂けるようにお願いしています。足元の障害や防災に問題がなければどのようなものでも受け入れています。	入居時に、部屋のしつらえは自由であることを本人や家族に説明し、過ごしやすい部屋作りをしている。椅子やぬいぐるみ等、好きなものを身近に置きながらも動線はすっきりと片付いており安全への配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋が解らなくなる方には目線にお名前が見えるように部屋の前に表示させていたでています。危険物(足元・洗剤・刃物・紐類)が目につくよう、手が届かないように、刃物は数もチェックし安全な環境を提供しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100184		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい島郷	ユニット名	3Fフロア
所在地	静岡県沼津市下香貫清水2135		
自己評価作成日	平成29年1月21日	評価結果市町村受理日	平成29年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail/2016_022_kani=true&lgvosyoCd=2291100184-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成29年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度の事業所目標である『居心地の良い生活』を目指して、ご自分の家のように安心でき、のんびりくつろげる雰囲気を作ることに心がけています。
ご入居者様1人ひとりのお話を聞けるようにし、要望に対して出来る限り応えていっております。
介護度の急激な変化にも対応し生活レベルを落とさない工夫が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を毎朝の朝礼時に斉唱している。全体会議などで職員全体で目標や理念について話し合っている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体などと交流を持ちボランティアやイベントを開催している。周辺散策・店舗への買い物へ出掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のお祭りを開き、模擬店・大道芸などを楽しみながら地域の方と交流しました。地元自治会に駐車場を使って頂き、地元の納涼祭を開催、参加させていただきました。地元住民様へ介護教室を開催予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回と同様にご入居者様家族様、地域包括、地元の自治会長様をお誘いし会議を行っている。得られた情報は御家族様・事業所内で共有させて頂きサービスの向上を図りました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご相談ごとや問い合わせを何度も行いご入居者様、ご家族様が困らないよう配慮している。生活保護の方の情報を定期的に報告している。事故発生時の報告もリアルタイムで行なっております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。ご入居時にご家族様へも説明している。フロア出入り口は施錠しています。ご家族様へは安全配慮の為とご理解を頂くようにお話をさせていただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティングを毎月開催、フロアでの困りごとを統一介護について個別に話し合う機会をもっている。ご入居者様の少しの傷にも目を向けいつ・どうして出来たのか検証している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が付いている方は現時点ではいません。後見人制度は知っているが詳しくは理解はない。管理者・職員の理解が必要になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書はご家族様と読み合わせを行い理解を求めている。何でもご質問しやすい環境を整えています。転倒やご病気になった際の対応方法を例を挙げて説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置していますがこれまで投稿はありませんでした。面会時に要望や不備がないか面と向かってお聞きさせていただいています。担当者会議に置いても聴取出来るような書面を使用してご意見を確認しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に話ができる環境づくりを行い、個別に意見を聞けるように面談や声を掛けています。代表の電話番号も緊急連絡網に入れ、電話ができる状況になっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に合わせ勤務を配慮しています。キャリアパスにて評価、能力や業務の責任で給与を決めています。資格のとり方、職位について周知し向上心につなげています。資格・研修に行ける勤務体制をとっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者が多くいましたが順次初任者研修を受けており、全体の知識・技術も向上している。研修なども積極的に出席できるように勤務調整し、力量や職責で受講する研修を受けるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との合同研修なども行っており、そこで交流や情報を吸収する機会を設けている。関係各所が主催する『講習』『交流会』のお知らせを周知し、参加している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様と入居時の面談や、入居から暫くは困っていることなどを伺いに訪室している。ご家族様には面会時にお話を伺っている。出来る限りご本人様やご家族様のご要望に添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の相談や面談の際やご入居前にご家族様と密にお話する時間を作り、疑問や不安が無いようにひとつひとつ解決するように心掛けて接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり情報収集行い、必要なサービスや援助の初期を決定し、援助しながらその人のアセスメントを行い随時変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・掃除・洗濯などを分担しそれぞれの役割を持ちお互いが支えあう生活を行っている。できなくてもお気持ちを大切に共に生活している関係を満足感に変えることができるように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の普段の状態や言葉などを面会時に細かく報告し情報を共有している。イベントや外出時の写真などをご家族様・ご本人様を交えて見て頂きたくさんお話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会について、入居時にご家族様が了解であれば、ご友人様の面会も制限していない事をお伝えしています。今まで買い物に行っていた人は職員と共に掛けご自身の目と手で確かめて買い物をしていただいています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い悪いを把握し、問題になる前に関わりを持ち解決している。個別対応と、全体対応にメリハリをつけている。(レクでもやりたくないものがそれぞれある個別性も理解している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された方はいらっしゃいますが、お亡くなりになっている為、それ以上の関わりは持っていません。告別式に出席させて頂ける方は出席し、退去後も送られてくるお手紙などは御家族様と連絡を取りお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時にその方を知る事から始め、こまめにご家族様・ご本人様とお話をして個別の対応を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・ご本人様と入居前にお話を伺い、今までどのような暮らしをしてきたか、どのようなお困り事があったのか、体調面に関しても今までの経過を詳しく聞きこみ情報収集しています。担当ケアマネ様が居れば情報提供を受けます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックを行い数字にて健康状態の把握を行っています。その都度お言葉を掛けさせて頂き顔の表情や顔色。温度の確認などを行い変化にいち早く気付くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本は月に1回フロア会議にてモニタリングしています。状態や状況の変化にてご家族様や医療連携先と相談し方向性を決めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者へ申し送りにて情報共有をしています。記録や気付きノートや日誌にその都度気付いた事やどんな状況だったのかを記入して情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様よりの情報で、その方のニーズが施設で賄うことのできることを判断し、我々もご家族様の1人として様々なお手伝いを行うようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様のこれまでの暮らしを把握し、その方に合わせ身体と心が安心して暮らせるようにと、その方が輝けるように得意なことを把握し行って頂き賞賛される環境づくりをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様がかかりつけの病院・医師で受診を受けられるように支援しています。受診の際は最新の情報を連携先に提供し健康管理をして頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問の際、変化を報告し情報共有をしています。緊急時は医療連携の看護師に報告し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に現病歴はもちろん既往歴、注意事項を入院先に提供しています。入院時に必要な物品など、こまめに訪れ入院先病院様に迷惑を掛からないように準備・追加をしています。退院時期に関しても早期に施設でできる範囲で受け入れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行いますがまだそのケースはありません。今までのケースでは、状況変化でご家族様に報告し方向性を決定、適時に医療連携先医師と話し合う機会を作り報告性を決めました。いずれも施設では対応困難で病院を選択し入院後お亡くなりになりました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変については生命が切迫している場合は救急車優先、他は管理者の指示にて行動を設定し、ルール通りに行動できている。定期的に社内研修を行い知識を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成、防災委員会を中心に定期的に訓練を行っている。地域での活動は沼津市よりの訓練で報告訓練を行っているが、地域では実施できていない。地域に認識され来ましたので次回より地域防災にお誘いされています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	診察や肌の露出させる援助を行う際はしっかりと戸を閉めたり、パーテーションで見えないように配慮している。ご入居者様の呼び方も全て『さん』づけに統一、言葉遣いも十分に配慮している。できていなければ個別に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や不満のお話を表に出しやすい人間関係を作っています。可能なことは早急に対処し、不可能な事には『何故』をしっかりと説明し納得して頂けるようにお話しています。自己決定ができるように『待つ』事もしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや身体を動かす事の基本ベースはありますが、業務的ペースにならないように心掛けている。できる限りの制限を持たせないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服やズボンなどの衣類を何枚か出しその中から選んで頂いて、その衣装について感想を言っています。目標はいつ外出しても恥ずかしくならないようにを目指していますが、ご入居者様のペースに合わせる事もあり乱れる事もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとのイベントや誕生日などの特別な日に見合った食事ができるように配慮しています。外食や皆で作ったものなど様々に楽しんで頂いております。準備や片付けも協力してその方のできる事を分担して役割を持たせています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の摂取量を把握して、その方にあった食事量を提供、水分量は1日1500ml以上を目標としています。夏場の外出・入浴後にはポカリスエットを提供し失われた水分とミネラルの補充をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科医師の往診、歯科衛生士の口腔ケアを行っています。毎食後に全員に口腔ケアをして頂き確認をし職員によって仕上げを行っています。夜間は義歯をしている方は洗浄剤に付けています。定期的に口腔ケアの研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方に関しては排泄の内容を把握させていただく為にトイレに行った際に排尿・排便の有無を聴取しています。失敗のある方は個別にリハビリパンツ・パット・オムツなどで対応しています。声掛け排泄誘導もしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の体操を取り入れています便秘傾向の方に関しては水分量のチェックを行い、便の性状や訴えを把握し必要時に医療連携医師に相談し下剤や緩下剤の処方依頼しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回入浴できるように週間予定としてプランしています。どうしても入りたくない方に関しては時間を変え、人を変え無理強いしないように対処、入浴を見送る際は清拭に切り替えたりして清潔を維持しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせ入眠介助を行っています。歩行不安定も呼吸抑制も考えられる為、出来る限り入眠導入剤を使用しない自然な入眠をして頂いています。入眠を無理に促さず自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬チェックリストを用い間違いのない与薬をしています。お薬のセットは薬局または管理者が行い情報共有もリアルタイムで行っています。用法・容量に関しては職員の末端までは把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今まで楽しみにしていたことを把握し、継続できるように整えること。楽しみを拡大できるようにしている。1日の中の家事などを分担しそれぞれの役割を持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を参考に外出を計画している。長距離の歩行が可能な方、近所までの方などお体の耐久性に応じ、日々散歩を実施している。遠距離の外出は施設車両にて行っている。(1月～3月は感染症対策で自粛している)ご家族様との外出は制限なく行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては基本的にはお持ち頂かない様にしていますが、どうしてもの方は少額のお金をお持ち頂いています。日常品の買い物と一緒に選び購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話をお使いの方はおります。制限はしておりませんがあまりお使いになりません。施設にお越しになることが多いです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝と夜勤時に掃除を行っています。転倒防止の観点から危険物を除去しています。音楽もみなさんのその時その時のご希望によって音楽を用意してリラックスできる空間づくりをしています。定期的に危険予知訓練を行い、日々居心地の良い空間を提供できるように心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掲示板にイベントや外出の写真とコメントを掲示して皆さんに思い出して頂ける様に配慮しています。ご入居者様の中でも気の合う合わないがあり共有部での席順を配慮。机によって趣味の内容が違っているようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談し、使い慣れた馴染みの物を置いて頂けるようお願いしています。足元の障害や防災に問題がなければどのようなものでも受け入れています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋が解らなくなる方には目線にお名前が見えるように部屋の前に表示させていたでています。危険物(足元・洗剤・刃物・紐類)が目につくような、手が届かないように、刃物は数もチェックし安全な環境を提供しています。		